

1 学習指導と評価の改善・充実

(1) 目標の確実な実現を目指す学習指導

学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視している。また、公民科においては、広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことが目標とされている。

公民科の指導に当たっては、生徒の学習意欲を向上させ、主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められている。

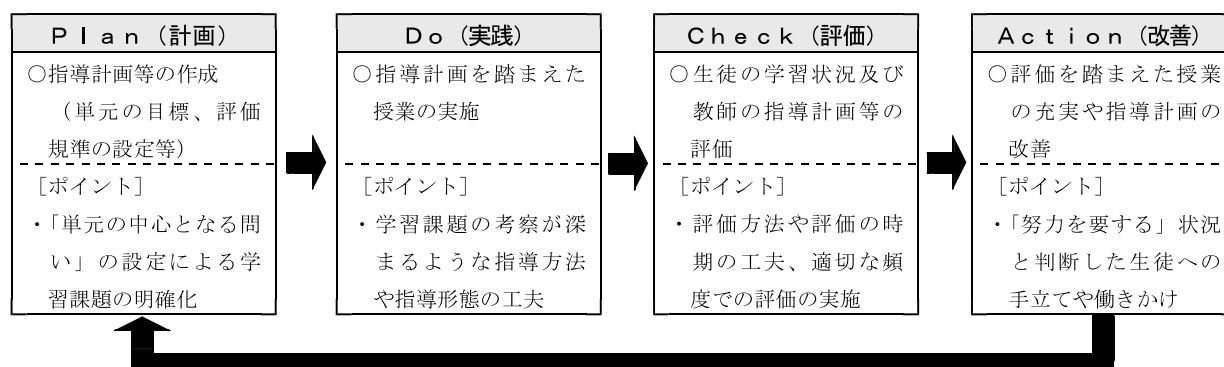
(2) 指導と評価の一体化

基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価において各観点の評価をバランスよく実施することが必要である。また、学習指導要領に示す内容が生徒一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、その後の学習指導の改善に生かしていくとともに、学校の教育活動全体の改善に結び付けていくことが重要である。

各学校では、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導を行うことができるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

(3) P D C Aサイクルの確立

学習指導と学習評価の一体的な取組を通じて、学習指導要領が示す目標を確実に実現するためには、学習指導と学習評価に係るP D C Aサイクルを確立することが求められる。



2 P D C Aサイクルを重視した学習指導の例

前項を踏まえ、P D C Aサイクルを重視するとともに、北海道教育委員会による「北海道高等学校学力向上推進事業」において作成された教材の活用や言語活動の充実により、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲を高める工夫を図った指導例を示す。

(1) 倫理の指導例

P 「計画」 — 単元の指導と評価の計画 —

「単元を中心となる問い」を設定した単元の指導計画の作成についてはH26手引参照。

【単元の目標と評価の観点の例】

| | | | | |
|-------|--|--|--|---|
| 単元名 | 人間としての自覚 (18時間) | | | |
| 単元の目標 | 人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。 単元を中心となる問い：人間の存在や「善」、「幸福」、「美」について自分はどのような考えをもっているのだろう。 | | | |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
| 評価規準 | 先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして人間としての在り方生き方について考えようとしている。 | 人間としての在り方生き方について、先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 | 人間の存在や価値に関わる基本的な課題を探究する学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。 | 自己の生き方に関わる課題が、多くの先哲によって探究された課題と通じていることに気付き、それが人間の存在や価値に関わる基本的な課題であることを理解している。 |
| 次程 | 学習内容 | | 評価の観点 関 思 技 知 | 評価方法等 |
| 第1次 | 【ねらい】 哲学の精神はどのように育まれたのか理解させる。 | 【問】 哲学とは何だろう。 教科書や資料、教師の説明を通して、古代ギリシアで育まれた哲学の精神について理解する。 | ◎ | 教科書や文献資料の内容を読み取り、理由、経緯等を理解している。(ノート) |
| 第2次 | 【ねらい】 「善い生き方」について、ソクラテス、孔子等の考え方を理解させる。 | 【問】 「善い生き方」について、先哲はどのように考えたのだろう。 教科書や資料、教師の説明を通して、先哲の「善い生き方」についての考え方を理解する。 | ◎ | 先哲の「善い生き方」についての考え方を理解している。(小テスト) |
| 第8次 | 【ねらい】 「善」、「人間の存在」、「幸福」についてグループで協議し、自己の価値観について自覚を深めさせる。 | 【問】 自分の人間観、幸福観はどのようなものだろう。 これまでの学習を踏まえ、グループの交流・協議を通して、自分の価値観や幸福観についての自覚を深める。 | ◎ | グループでの交流や協議を踏まえ、自分の価値観や幸福観について適切に表現し、発表している。(ワークシート、発表) |

D 「実践」 — ワークシートの活用及びグループ協議等の導入 ※第8次における取組

ワークシート

Q1 あなたにとって「善い生き方」とは？

① 積極的に追究すべきものである。

5 - 4 - 3 - 2 - 1

「5」強くそう思う
「4」そう思う
「3」どちらともいえない
「2」あまりそう思わない
「1」全くそう思わない

理由

他者の意見

② 社会的地位や物質的な豊かさなど、目に見えるものである。

5 - 4 - 3 - 2 - 1

理由

他者の意見

Q2 あなたにとって「幸福」とは？

① 与えられるものではなく、自分の努力により得られるものである。

5 - 4 - 3 - 2 - 1

ペア・ワークの展開

ワークシートを基に隣同士で意見を交流する。

自分とは異なる相手の意見とその理由をワークシートに記入する。

意見を交流した感想（自分と相手の類似点、異なる点など）について話し合う。

グループ協議の展開

4人グループをつくり1人ずつ意見を発表する。

ペアワークで出なかった意見と理由をワークシートに記入する。

特徴的な項目（同意見が多い等）について選り全体で発表し、交流する。

〈指導上の留意点等〉

○自分の回答の理由を考察させることにより、自分の価値観に対する自覚が順次深まっていくような問いを立てる。

○自分の意見とは異なる他者の意見との比較を通して、相手の意見を尊重する姿勢や態度を身に付けるとともに、自分の価値観を分析し視野を広げさせる。

○グループ協議では出された意見から「幸福」についてのクラスの思考の傾向を教師又は生徒が分析し、ワークシートにまとめるなどの活動も考えられる。

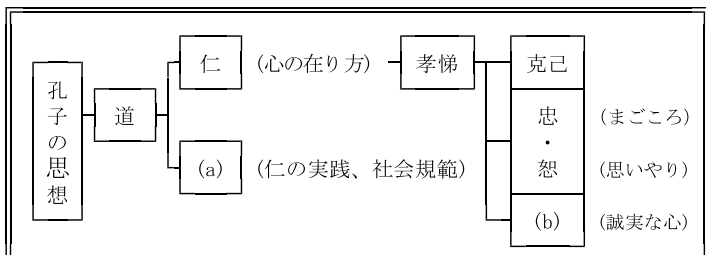
【言語活動の充実】

○自分と他者との意見の比較や意見交換等を行わせる。

C 「評価」

－小テストによる生徒の到達度の把握や指導の成果の評価－

小テスト (単元の途中において小テストを実施し、生徒の学習状況を把握)



- 問1 上の図の(a)、(b)に入る語句の組合せを選びなさい。【知識・理解】
 ア (a)－礼、(b)－義 イ (a)－善、(b)－義
 ウ (a)－礼、(b)－信 エ (a)－善、(b)－信
- 問2 孔子が考えた「善い生き方」を説明した次の文のうち、最も適当なものを選びなさい。【知識・理解】
 ア 上下の序列に基づいた秩序を尊重するとともに、己の欲望を制限し身を修めようとする生き方。
 イ 平等の原則に基づいた秩序を尊重するとともに、己の欲望を制限し他者との関係を重視する生き方。
 ウ 自らの利益よりも他者の利益を尊重するとともに、差別なき愛に基づいた社会奉仕を重視する生き方。
- 問3 あなたは先哲の思想を手がかりとして「善い生き方」についてどのように考えますか、理由を含めて書きなさい。【思考・判断・表現】

〈評価の留意点等〉

- 小テストによる評価のみに偏ることのないよう十分に留意する。
- 先哲の思想について、図を用いて構造的に示すことにより、学習したことを分かりやすく振り返らせる。
- 問1では、儒教の創始者であり、人間としての「善い生き方」を説いた孔子の思想の重要なポイントについて、正しく理解できているかをみる。
- 問2では、孔子が説いた、人間としての「善い生き方」について、その内容を正しく理解できているかをみる。
- 問3では、先哲の思想を踏まえながら、生徒が「善い生き方」についての自分の価値観を自覚し、それを記述しているかをみる。

○小テストの参考として「北海道高等学校学力向上推進事業」における教材を活用することができる。
 URL <http://www.gakuryoku.hokkaido-c.ed.jp/>

A 「改善」

－小テストや授業評価シート等を活用した生徒への手立てや学習指導の改善－

小テストの活用 (「努力を要する」状況(C)と評価される生徒への指導の手立て)

| | 生徒の状況 | 教師の指導(指導の手立て) |
|----------|---------------------------------------|--|
| 思考・判断・表現 | ○「善い生き方」について自分の考えを述べていない。または何も書けていない。 | ・先哲の思想を例に、「善い生き方」についての視点を提示するとともに、考察のためにどのような資料を用い、どのような結論を出したいのか再度整理させ、短い文章でまとめさせる。 |
| | ○自分の考えについての理由の記述が十分ではない。 | ・先哲の思想をまとめさせたりクラスの友人の考えを確認させたりするなど、他者の考えを参考とさせる。 |

授業評価シート(教師用)(例) (授業者自身の授業の振り返り)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|---------------------|---------|
| 1 | ワークシートの項目の設定は適切だった。 | 4・3・2・1 |
| | 理由・改善点等 | |
| 2 | 課題探究の手順が生徒に理解されていた。 | 4・3・2・1 |
| | 理由・改善点等 | |
| 3 | 協議の時間が十分に確保されていた。 | 4・3・2・1 |
| | 理由・改善点等 | |

授業アンケート(生徒用)(例) (生徒の学習状況の把握)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|---------------------|---------|
| 1 | ワークシートの項目は分かりやすかった。 | 4・3・2・1 |
| | 理由 | |
| 2 | グループ協議はスムーズに進行できた。 | 4・3・2・1 |
| | 理由 | |
| 3 | 協議の時間を十分に確保できた。 | 4・3・2・1 |
| | 理由 | |

〈改善例等〉

- 教師と生徒の相互評価により、効果的な授業改善が図られるよう、評価項目の内容を揃えて設定する。
- 評価項目の設定については、ワークシートの内容やグループ協議などの進め方などの学習に取り組む姿勢や態度を振り返らせる項目も設定する。
- 授業アンケートの結果から、学習に取り組む姿勢や態度及び実施状況があまり良好ではない生徒がいた場合、学習の過程を分析し、生徒の興味を引く課題を提示したり、課題を探究する方法について具体例を示す。

(2) 政治・経済の例

P 「計画」 — 単元の指導と評価の計画 —

「単元を中心となる問い」を設定した単元の指導計画の作成についてはH26手引参照。

| | | | | |
|-------|--|---|---|---|
| 単元名 | 民主政治の基本原則と日本国憲法（21時間） | | | |
| 単元の目標 | 日本国憲法における基本的人権の尊重、民主主義、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構を概観させるとともに、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて理解させ、民主政治の本質や現代政治の特質について把握させ、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察させる。 単元を中心となる問い：望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方とはどのようなものだろう。 | | | |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
| 評価規準 | 現代の政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質を意欲的に追究し、望ましい政治の在り方や主権者としての政治参加の在り方について客観的に考察しようとしている。 | 現代の政治から課題を見だし、民主政治の本質や現代政治の特質を多面的・多角的に考察し、望ましい政治の在り方や主権者としての政治参加の在り方について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 | 現代の政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を選択して、効果的に活用している。 | 日本国憲法の基本的性格、政治機構、政治と法の意義と機能、人権保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治など民主政治の基本原則や、民主政治の本質と特質を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 |
| 次程 | 学習内容 | | 評価の観点 関 思 技 知 | 評価方法等 |
| 第1次 | 【ねらい】政治と法の意義と機能について理解させる。 | 【問】政治と法の意義と機能はそれぞれどのようなものだろう。 教科書や資料などから、政治と法の意義と機能についてノートにまとめ、その内容を理解する。 | | ◎ 政治と法の意義について理解している。（ノート） |
| 第2次 | 【ねらい】基本的人権の保障と法の支配について課題意識を高めさせる。 | 【問】憲法が定められ、国民の自由や権利が保障されていることの意義は何だろう。 教科書や資料のまとめにより基本的人権の保障等の概要を把握するとともに裁判所職員の講話を通して、基本的人権と法の支配について課題意識を高める。 | ◎ | ◎ 憲法が定められ国民の自由や権利が保障されていることの意義について意欲的に追究している。（ワークシート、発言の内容） |
| 第8次 | 【ねらい】望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察し、関心を高めさせる。 | 【問】望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方はどのようなものだろう。 これまでの学習を振り返り、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察しレポートにまとめ、課題を意欲的に高める。 | ◎ ◎ | ◎ ◎ 望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について意欲的に考察し、課題意識を高めている。（ワークシート、発言の内容） |

外部講師の活用を指導計画に位置付け、単元の学習指導の充実を図ることをねらいとした。（第2次）

D 「実践」 — ワークシートの活用と外部講師による講話に向けた事前指導 —

ワークシートの活用例

○学習を振り返ろう。

1 誤った判断を防止するシステム

(1) 【1】：慎重な裁判を行い誤審（冤罪）を防止するため、3回裁判が受けられる。第1審→控訴→上告

(2) 【2】：新たに無罪を証明する決定的な証拠が見つかったとき

(3) 裁判公開の原則（憲法第82条）

2 司法制度改革

(1) 国民の司法参加

ア 裁判員制度（2009年スタート）

イ 参審制と陪審制

○考えよう。

1 裁判員制度について、その必要性和課題を整理して、自分の考えをまとめてみよう。

| 必要性 | 課題 |
|-------|----|
| 自分の考え | |

○ 次の時間は、裁判所職員から裁判について講話を聴きます。これまでの学習を踏まえて、どのような質問をしてみたいか、記入しよう。

〈指導上の留意点〉

○ワークシートには、基本的な知識の習得や課題意識を高めさせることをねらいとした問いを盛り込んだ。なお、「北海道高等学校学力向上推進事業」における教材を参考とした。
URL <http://www.gakuryoku.hokkaido-c.ed.jp/>

【言語活動の充実】

○生徒が各自の考えをまとめた後、ペアワークやグループワークを取り入れることにより、適切に表現する能力や態度を育てる工夫を行う。

○外部講師の活用にあたっては、平成27年3月27日付け教義第1979号通知「学校における外部人材の活用について」を踏まえること。

○外部人材の活用にあたっては、指導計画に位置付け、事前及び事後指導を充実させる。

C 「評価」

－小テストによる生徒の到達度の把握や指導の成果の評価－

小テスト (単元の途中において小テストを実施し、生徒の学習状況を把握)

1 次の文は日本司法支援センター「法テラス」に寄せられた法律相談の内容である。次の文を読んで設問に答えなさい。
「主婦Aさん」からの相談

職場の店長へ「年次有給休暇をとりたい」と伝えたところ、「パートタイムの職員は、年次有給休暇は取得できない」と言われました。そんなはずないと思うんだけど・・・。

「会社員Bさん」からの相談

仕事中に大けがをしてしまいました。しかし、会社から自分の健康保険を使い、自己負担で治療費を払いなさい、と言われてしまいました。これっておかしくないですか？

- 1 主婦Aさんの相談に出てくる「年次有給休暇」とは何か、説明しなさい。【知識・理解】
- 2 あなたが日本司法支援センター「法テラス」の職員であったと仮定して、主婦Aさんに法律に基いたアドバイスを書きなさい。【思考・判断・表現】
- 3 日本司法支援センター「法テラス」が設立された背景について30字以上で説明しなさい。【思考・判断・表現】
- 4 望ましい司法参加について、あなたの考えを、そのように考える理由とともに書きなさい。【関心・意欲・態度】

〈評価の留意点等〉

○小テストは、単元の到達目標に照らして、生徒の学習の成果を4つの観点に基づいて評価できるように工夫する。

○思考力・判断力・表現力の観点について学習の成果を評価するために、授業で扱っていない資料等を提示し、学習の過程で身に付けた知識をもとに考えたり、判断したりしたことを書かせるよう工夫する。

○生徒の理解の状況から指導方法や指導内容の工夫改善を図る。

A 「改善」

－小テストや授業評価シート等を活用した生徒への手立てや学習指導の改善－

小テストの活用 (「努力を要する」状況(C)と評価される生徒への指導の手立て)

| | 生徒の状況 | 教師の指導 (指導の手立て) |
|----------|---|--|
| 関心・意欲・態度 | ○望ましい司法参加についての考えの記載がない、または単語のみなど不十分な記載となっている。 | → 司法参加に関わる基礎的な知識の確認を行い、司法参加の意義や背景について、キーワードを挙げさせて文章化させる。 |
| | ○望ましい司法参加についての記載はあるが理由の記載が十分ではない。 | → 自分自身の考えに至った経緯や参考となった事項をノートに書き出させ、考えの根拠を整理させ、短い文章でまとめさせる。 |

授業アンケートの活用 (生徒による授業評価を活用した授業改善)

【生徒用授業アンケート(例)】 年 組 番 氏名

| No. | 項 目 |
|-----|---|
| 1 | 授業の目標は明確になっていましたか。 ア 明確だった。 イ まあまあ明確だった。 ウ あまり明確でなかった。 エ 明確でなかった。 |
| 2 | 意欲的に授業を受けていましたか。 ア 意欲的だった。 イ まあまあ意欲的だった。 ウ あまり意欲的でなかった。 エ 意欲的でなかった。 |
| 3 | グループ協議などには積極的に参加していましたか。 ア 積極的だった。 イ まあまあ積極的だった。 ウ あまり積極的でなかった。 エ 積極的でなかった。 |

〈改善例等〉

【課題があった場合】

○授業の目標の板書や1単位時間の「問い」を明確に示し、生徒の関心や意欲を高めさせる。

【授業アンケート】

○授業者自ら自己評価を行うほか、生徒による授業アンケート等と照らし合わせ、自己評価の客観性を高め、授業の改善点を明らかにする。

Topic

「公職選挙法等の一部を改正する法律」の公布に関わって

「公職選挙法等の一部を改正する法律」が平成27年6月19日に公布され、選挙権を有する者の年齢が満20歳以上から満18歳以上に引き下げられた。このことを踏まえ、高等学校においては、生徒に対し、国家及び社会の形成者として必要な政治や選挙への関心を高め、政治的教養を育む教育の一層の充実を図ることが求められている。

高等学校学習指導要領において、公民科では、教科の目標として「平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」ことが示され、例えば、科目「現代社会」では内容の(2)のイ「現代の民主政治と政治参加の意義」において「政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる」こと、科目「政治・経済」では内容の(1)のア「民主政治の基本原則と日本国憲法」において「政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察させる」ことが示されている。

公民科においては、学習指導要領を踏まえ、次に示す取組例なども活用しつつ、生徒に政治参加の重要性について自覚を深めさせるなどの指導が求められている。

■ 取組例：地方議会と連携した模擬議会の取組（科目「現代社会」）

1 単元の指導計画

| | | | | |
|--------|---|--|--|--|
| 単元名 | (2)イ 現代の民主政治と政治参加の意義（全11時間） | | | |
| 単元の目標 | 基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。 | | | |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
| 評価規準 | 現代の民主政治に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主社会における人間としての在り方について考察しようとしている。 | 現代の民主社会の諸事象から課題を見だし、民主社会において求められる価値や民主政治を基礎付ける考え方などについて幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察し、民主政治の在り方や民主社会における人間としての在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 | 現代の民主政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。 | 基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立について理解し、その知識を身に付けている。 |
| 時程 | 主な学習活動 | | | 評価の観点 |
| 1 | ・基本的人権の保障及び国民主権が実現される仕組みについて理解する。 | | | 関 思 技 知 |
| 6 | ・地方自治体の仕組みや政策などについて自治体職員の講話を聴き、課題を考える。 | | | ○ ○ |
| 7(構)・8 | ・地方自治体の課題を踏まえ、模擬議会における質疑内容を考える。 | | | ○ ○ |
| 9・10 | ・模擬議会に参加する。 | | | ○ ○ |
| 11 | ・模擬議会の感想や議会の意義について考えたことをワークシートにまとめる。 | | | ○ ○ |

模擬議会を指導計画に位置付け、事前指導及び事後指導を充実させる。

2 本時の指導案

| | | | | | |
|--------------------|--|--|------------------------|------------|---------|
| 本時の目標 | 前時の自治体職員の講話を踏まえ、新聞やインターネット等を活用して、学校の所在する地方自治体の課題について調べる。 | | | | |
| 本時の展開（11時間のうち7時間目） | | | | | |
| 指導過程 | 指導内容 | 学 習 活 動 | | 評価の観点 | 評価方法 |
| | | 教師の活動 | 生徒の活動 | | |
| 導入 | ・本時の学習課題について | ・本時の学習のねらいについて、前時の講演を振り返り説明する。 | ・本時の学習のねらいについて確認する。 | | |
| 展開 | ・課題の調査について | ・前時の講演や資料、インターネットを用いるなど課題に関する調査方法について説明する。 | ・課題について調べ、ワークシートに記入する。 | 【資料活用の技能】 | ・ワークシート |
| | 「私たちの学校のある地方自治体の課題は何だろうか？」 | | | | |
| | ・付箋紙を用いたグループワーク | ・協議の進め方について説明する。（課題について協議する） | ・課題について、グループで協議する。 | 【思考・判断・表現】 | ・発言内容 |
| まとめ | | ・次回、各グループの模擬議会での質疑の内容について考えることを予告する。 | ・各グループの課題について再確認する。 | | |

※ 模擬議会の進行例

議場に議員役の生徒と執行部役の議員が入場（質問をしない生徒は傍聴席へ）

生徒は議員席へ着席、議員は執行部側に着席

質問する生徒は登壇し質問（質問は前時までに準備）

答弁担当の議員は登壇し答弁

◆ 高等学校等の生徒向け副教材「私たちが拓く日本の未来」等について

文部科学省では公職選挙法改正による選挙権年齢引下げ等に対応し、総務省と連携し生徒向け副教材「私たちが拓く日本の未来」及び教師向けの指導資料を作成した。各学校においては、本副教材を活用し、生徒への必要な指導を行うとともに、教員の研修の充実を図ることが重要である。（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shukensha/1362349.htm）